

※以下は要約文となりますので、詳細は配信動画等をご覧ください。

<令和7年度2月補正予算案>

2月補正予算案は、69億円の増額。重点支援地方交付金を活用した佐賀県独自の物価高騰対策として87億円。国の補助を活用した経済対策に83億円。

執行残や節約分として101億円の減額。都合、69億円の増額。

物価高騰対策 切れ目なく支援

国から重点支援地方交付金として134億円交付された。

11月追加補正で福祉施設への支援等に21億円。今回が87億円。当初予算で8億円。合計116億円、残りの18億円は、新年度の補正で対応したい。

116億円を61事業に措置する。きめ細かく物価高騰対策が届くように考えた。大きく分けて、生活者の支援、事業者の支援（商工業、農業も含む）、福祉支援、文化・スポーツ支援を計上した。

生活者支援 21億円

県民の痛みに寄り添い、一つ一つ丁寧に、幅広い支援で暮らしを支えたい。

・プレミアム商品券で生活を直接支援

特徴は、商工団体連携型。商工会連合会が事務局になり、組合や商店街で発行できる形になる。県内の業者団体に恩恵が届き、県民は身近なところで商品券が使えるように工夫した。プレミアム率は最大25%、10億円。

・高校生一人に1万円の支援

新1年生はスタート支援に、2年・3年生には修学旅行等の費用として支援。2.4億円。

・子育て世代の外出支援

0～2歳児（未満児）がいる世帯に、タクシー利用券を1世帯2万円配布。

・保育施設や学校給食、寮食の食材費を支援

私立の保育所や認定こども園、幼稚園、県の特別支援学校などに支援する。

・県民をニセ電話詐欺から守る

県内の被害総額が過去最悪となっているニセ電話詐欺から県民を守るため、自動録音機能等のある固定電話の導入経費を半分補助する。2,400万円を予算化。

事業者支援（産業・観光） 35億円

将来を見据え、生産性の向上、賃上げの推進、販路の拡大に結び付けられるよう、新たにNEXT賃金UPプロジェクトとして、過去最大規模の事業者支援を行う。

- ・10%以上の賃上げとセットであれば、既存設備のメンテナンスも対象
- ・国の業務改善助成金に上乗せ支援
- ・従業員がいない事業者にも生産性向上を支援

観光に3.9億円

- ・オンライン予約サイトと連携した誘客促進につながるクーポン券を発行
- ・バス旅行商品の造成支援

製造業に成長への投資を支援 5億円

- ・生産性の向上や新分野進出への設備投資を支援

伝統産業の競争力強化支援に2.3億円

- ・設備投資、補修
- ・販路拡大、新商品開発

物流の効率化を強力に後押し 3.9億円

- ・自動車整備事業者を補助対象に追加
- ・宅配ボックス設置を補助

事業者支援（農林水産業） 36億円

燃料、飼料、資機材の高騰に加え、気候変動の影響も大きい。目の前の物価高騰対策に加え、将来に向けた投資にも支援する。

農林漁業者全てに燃料費等高騰支援

- ・ハウスの加温、漁船、シイタケの乾燥施設等の燃油の購入

畜産農家に県独自の支援継続 3億円

- ・国の補填制度は、配合飼料が高止まると発動しないため

園芸農家の設備投資を支援

- ・収益向上のため資機材導入支援。補助率を3/5に上げて支援
- ・高温対策の資機材の導入支援。補助率2/3

畜産農家に、暑さ対策と防疫対策対応の資機材導入に補助率2/3。

林業事業者に、高性能林業機械、木材加工機械支援にも補助率を過去最高に上げた。

福祉支援 22億円、文化・スポーツ支援 2億円

CSOとの連携による支援に、3.4億円

- ・子ども食堂・宅食、コミュニティフリッジ、フードバンク

老人クラブ活動へ支援金給付事業を新規に創設。

福祉施設職員の負担軽減支援。設備導入に補助率2/3を予算化。

保育施設の空調設備に、国庫補助の隙間を対象に補助率3/4の事業を組み立てた。

文化芸術活動支援に1.8億円

スポーツには1,000万円。全国大会に出場する遠征費を支援。上限額1万円の補助。

経済対策 産地の持続的発展を支援 事前防災を強化

農業の生産基盤ステップアップ支援事業 34.8億円

- ・広域たまねぎ選果貯蔵施設、佐賀市北部乾燥調製貯蔵施設、嬉野の茶製造施設など

事前防災緊急強化事業

- ・避難所の生活環境を向上させる資機材整備。災害支援CSO等に補助率10/10

<令和8年度当初予算案>

人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり

山口県政の一貫した考え「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」をもとに、予算を編成した。

意識したポイントは3つ。

- 1つめは、「輝ける教育」。教育環境の充実を教育委員会と調整し組み立てた。
- 2つめは、「輝ける女性」。女性が住みやすい、はたらきやすい環境づくり。
- 3つめは、「輝けるシニア」。シニア世代が生き活きと活躍するための環境づくり。

令和8年度当初予算額は5,471億円。コロナ対策費を含むと過去3番目の規模。コロナ対策費を除くとこれまでの最高額。今後、社会保障関係費が増加するという認識の下、編成した。

分野別概要

分野別概要は、大きく4つ。

- ・福祉・医療の充実に828億円。前年比21億円増。
- ・産業振興に417億円。うち制度融資が300億円程度。
- ・農林水産業に216億円。8億円増。
- ・教育に934億円。61億円増。

輝ける教育 子どもたちが安心して、より深く学べる環境づくり

- ・SCHOOL*COOLプロジェクト

熱中症対策として、全県立高校体育館に大型スポットクーラーを2台ずつ配置する。また、体育館稼働率の高い3校（佐賀北・唐津南・佐賀商業）に空調を整備する。

- ・スワルとアガルプロジェクト

県立高校はまだ和式トイレが多いので、洋式化と床の乾式化を進める。

- ・少人数学級・選択制の導入

国に1年先駆け、中学2年生に少人数学級を導入する。

- ・SSP Batons

生徒が主体となって備品整備を考える支援事業。

その他「これからの学校プロジェクト」、「佐賀らしい探究学習推進事業」など、教育に力を入れた予算とした。

輝ける女性 女性が住みやすく、はたらきやすい環境づくり

SAGA Woman Canvas プロジェクトを中心に据えた。

- ・MONDA 解消プロジェクト

女性が楽しくはたらける環境をつくりたい。「それは〇〇するものだ」といった、これまでの価値観を考え直す過程で、いろいろなものが生まれてくると思う。

- ・SAGA×WOMAN Expo 2026 は、8年ぶりの東京以外での開催。

- ・女性のためのキャリアトークカフェやSAGA Woman Work Design プロジェクトでは、女性同士がつながったり、新たなビジネススキルを身につけて起業したりすることを期待する。

フェムケア SAGA 推進事業、SAGA PAPA 育休アシスト事業は、継続事業。

輝けるシニア シニア世代が生き活きと活躍するための環境づくり

ゆめさが大学 学校祭には、1,800人が集まり、みなさんが生き活きと活動されていた。シニア世代の活動の広がりを見せるような事業にしていく。

健康促進のため、ウォーキングイベントの開催や高齢者に向けたSAGATOCOの利活用推進を進める。また、老人クラブの活動支援事業や介護関係の事業も含め、生き活きとしたシニア世代をつくる事業に乗り出したい。

佐賀県立大学 設置準備事業

カリキュラム検討、教員の公募開始、1期生（新高校1年生）への周知など、設置許可申請に向けた準備を進める。ハード面では、校舎建設関連予算を議会に上程する準備を行っている。

ものづくり産業×福祉 佐賀型産福連携プロジェクト

佐賀県は農福連携のトップランナーで、取組数も年々増加。ものづくり産業にもマッチングできると考えた。産福連携コーディネーターが伴走支援し、産福Win-Winとなる連携モデルをつくり出す。

“佐賀型仕事体験” 移住支援事業

工芸品や農作業、体験入社などのリアルな仕事体験を入り口に、移住に結びつける事業。

私立高校キャリアキャラバン事業

高校生の県内就職率は 66%。向上を目指し、私立高校内で県内企業合同説明会を学校単位で実施する。高校生は、より深い説明が聞け、企業は直接PRができる。マッチング率向上を期待する。

福祉・医療の充実のための関連事業

- ・ 24 時間 365 日体制の精神医療相談体制
本人や家族が安心して暮らせるように支援する。
- ・ 唐津市に困難を抱える女性の相談窓口設置
佐賀市と併せて、2 拠点で相談に対応。
- ・ こども入院時の付添い家族の負担軽減
休憩スペース整備や簡易ベッドを購入する医療機関を支援。
- ・ ひとり親家庭医療費の現物給付化
市町が負担する医療費の 2 分の 1 を県が補助。

想いつながる“さがすたいる”事業

11 月をさがすたいる month と位置づけ、集中的に取組を実施する。

また、さがすたいるパートナー企業認定制度を創設し、みんなが心地よく過ごせる佐賀県にしたい。

子育てし大県“さが”プロジェクト

平成 27 年スタート時の 7 事業 3,600 万円から 84 事業 15.6 億円に拡大。

- ・ SAGA ふりかけプロジェクトを拡充：先行実施した結果を受け、全小学生に拡大。
- ・ いじめ みんなでピリオド。プロジェクト：有名アスリートなどが、動画で発信。
- ・ 縁カウンターさが：オンライン化で利便性を向上させ、婚活イベントを実施。
- ・ ほいくのたね。プロジェクト：中高生と保護者が保育園などを巡るバスツアーを実施し、人材確保につなげる事業。

プロフェッショナルな司書が活躍 “本 Voyage さが！プロジェクト”

- ・ 「司書県さが」推進事業

司書の教育拠点の構築や司書に光を当てる情報発信を行う。令和 11 年度、全国図書館大会佐賀大会を開催予定。司書が活躍し、県民の学びを支える佐賀県にしたい。

Society5.0に向けて デジタル実証フィールドさが事業

新年度は大きな事業を2本実施。

・ Society5.0 実証

SAGA アリーナに8Kカメラや高機能收音マイク等を設置し、その映像音声をAIで自動編集する。審判・選手目線など、複数の視点で見ることで、臨場感のある体験が可能になる。

・ 宙（そら）への扉プロジェクト

衛星データと車両ドラレコを組み合わせ、道路の陥没・損傷を自動検知する仕組みを実証する。成功すれば、道路陥没などが事前に検知可能になり、予防的な対応ができる。期待して、取り組みを見守りたい。安全・安心なまちづくりに活かす佐賀発のチャレンジ。

SAGA パラスポ 2026 開催事業

2024年の全障スポ後の流れを受け、2025年にスタートしたパラスポーツ全国大会を2026年も継続。初年度は全国から25チーム160人が参加した。2年目は、ソフトボール（知的障がい部）を追加し、7競技を開催予定。来年度の状況を検証し、その先の展開を考えたい。

多様なニーズに対応 SSP アスリート寮整備事業

県内のSSPアスリート寮は、民間にも協力いただいて佐賀市の九州電力、鳥栖市の久光、太良町の肥前建設の3か所。県外から多くのアスリートが集まり、県内の高校で指導を受けている。

佐賀地区は学校が集中しており、入寮希望者が多い。特に、女子は7枠に対し46人と高倍率。そこで、県の未利用財産である旧高木瀬教職員宿舎（3階建）を改装予定。競技ごとに柔軟な運営ができるよう、各フロアに食堂や舎監等を整備する。これにより、約40名の入寮が可能になる。これでも不足するため、民間企業への協力も呼びかける。

世界の文化創造拠点 ARITA プロジェクト

令和7年8月採択事業の2年目。令和8年度の事業は「The Living Museum ARITA Project」。文化体験コンテンツづくりと、九州陶磁文化館の文化観光ハブ拠点化の2つをメインにする。

吉野ヶ里遺跡「魅せる収蔵庫」整備検討事業

出土品が、コンテナ約5万箱分あり、収蔵施設も老朽化している。「本物」の出土品を収蔵したまま展示する新しい展示スタイル「魅せる収蔵庫」。甕棺など、膨大な資料を収蔵したまま展示し、圧倒的な量と価値を体感できる施設を目指す。

東大総合研究博物館との連携協定を3月に締結予定。東大総合研究博物館の知識・技術・ノウハウを活かし、収蔵庫自体が輝く施設になる。また、東大の考古学との継続的な調査も可能になる。

佐賀の誇りを取り戻す 佐賀復権推進事業

江藤新平復権プロジェクトは、2月1日の復権記念の日で1周年を迎えた。

新たな復権推進事業を続ける。漫画雑誌とのコラボ、佐賀戦争の実態解明など、学術検証も進めつつ、県民運動として盛り上げていく。

文化観光の推進 LiveS Beyond X プロジェクト

文化を大切にする取組を継続。文化観光モデルの創出を図りつつ、文化団体を支援する。全国に先駆け、新たに観光連盟の中に文化機能を持たせた「文化観光連盟」へと再編したい。文化と観光が、実務レベルで複合できるようにしていく。

鍋島焼献上の歩み展 in タイ開催事業

日タイ修好140周年を機に、令和9年2月にバンコク国立博物館で展示会を開催予定。同会場で伝統工芸品の制作実演も行う。

鍋島焼に限らず、佐賀の伝統工芸品の販路拡大につなげたい。

唐津エリア横断連携事業（唐津プロジェクト）

様々な事業を一体化する横断連携事業のため2.2億円を計上。

・世界海洋プラスチックプランニングセンター PLA PLA

今年6月のオープンのため、県内小中学生の体験料を支援する。まずは地元の小中学生に発信の母体になってもらいたい。

・ツール・ド・九州

開催期日は10月10日、佐賀県では初開催。コースはスタート地点をPLA PLA前で調整中。ルート・グランブールを堪能できるような設定をしたい。

・KMAP（唐津マリンアクティビティパーク）

4月下旬からパラセーリングのサービスを開始する。トルコ製のパラセーリングは、日本に向けて輸送中。今年開催するビーチイベント「Grand Blue 2026」など、唐津のマリンスポーツの楽しさを拡大したい。将来的には民間主導で育つ形を目指す。

むしろこれから 鹿島・太良 プロジェクト

「“non-station” 打ち出すべきは“relation”」。「面的なホテル」という新たな概念で、新駅舎を含む各駅を「沿線えきやど」と捉え、スローツーリズムの拠点としたい。

地域全体が連携する仕組みも含めて進めたい。新駅舎の建築工事は、令和8年度から

開始予定。

全国都市緑化フェア・山の博覧会開催準備事業

令和 10 年に開催。

- ・全国都市緑化フェア from SAGA(SAGA GREEN JAM)

3月25日～5月28日。メイン会場は、吉野ヶ里、森林公園、佐賀城公園の3会場。

- ・山の博覧会 (SAGA JAM)

同時開催し、秋まで継続。県内全体をフィールドに様々な事業を企画する。山を大切に作るムーブメントが九州全体に起こり、各地で“ジャムる”取組につながるよう期待する。

コスメ国際カンファレンス in SAGA 開催事業

佐賀の化粧品産出量は10年で2.2倍に成長した。

アジアコスメを世界へ広げるための国際ネットワーク GCC Asia-Pacific Division は、国単位で参加する韓国・台湾・タイに対し、佐賀だけが地域として参加。日本でコスメ産業という核がないので、佐賀がやっていきたい。

佐賀大学は、国公立大学初の「コスメティックサイエンス学環」を新設する。30人定員のオープンキャンパスに2日で560人の申込みがあった。

2027年3月、SAGA アリーナでコスメ国際カンファレンス in SAGA を開催予定。

さが伝統産業交流促進事業

新規事業として「SAGA CRAFT WEEK (仮)」を企画中。県内各地で、オープンファクトリーやクロストークを行う。伝統芸能の担い手が仲間をつくり、ともに盛り上げる雰囲気醸成し、後継者育成につなげたい。

さが園芸888運動推進事業

売上888億円を目指し、新規就農者を研修から就農まで一貫して支援。

若手農業者は、大型の事業立てにし、AIやデータを活用している。「楽しく収益もある」農業へと変化している。この兆しを捉え、規模を拡大し、利益を出しやすい構造にするべく後押ししたい。農地提供者に協力金として10アールあたり5万円を交付する。さらに、農業版の企業参入奨励金を創設する。

園芸のブラッシュアップのため、新品種を開発する。

「第80回 全国お茶まつり佐賀大会」は、8月～11月に開催予定。

玄海・有明海 水産業振興事業

近年、玄海海域は、磯焼けの増加、アカウニ等の水産資源減少、ケンサキイカの不漁

の問題がある。この対策として、アカウニ種苗の放流を行っているが、さらに量を増やし海の環境を良くしたい。また、はえ縄漁との複合経営を検証する。

有明海海域は、二枚貝増殖のため、サルボウを大量放流する。さらに、海況予測システム開発を推進。貧栄養海域での養殖モデルを実証中。

佐賀を支える社会資本整備推進事業

- ・ Tゾーン：佐賀福富道路・佐賀道路
嘉瀬南～嘉瀬北 I C（仮称）をつなぐジャンクションTの着工を開始。
- ・ 有明沿岸道：大川佐賀道路
諸富 I C～川副 I C（仮称）間は、令和 8 年度開通を目指す。
- ・ 有明沿岸道：福富鹿島道路
鹿島側の橋梁整備や用地取得を推進
- ・ 西九州道：伊万里道路
東府招～伊万里中央 I C（仮称）間の、道路改良・構造物工事
- ・ 久原臨港道路
4 車線化に向けて事業推進
- ・ 城原川ダム
調査設計と用地取得
- ・ 六角川水系河川整備
牛津川遊水地の用地買収、ポンプ場の整備
- ・ 土砂災害防止対策
唐津の工事を継続中
- ・ 都市公園の整備
佐賀城公園の整備等